

第30回越後湯沢全国童画展 開催！

童画展表彰式、作品解説会、 交流会が行われました



表彰式にて大賞を受賞された阿部 広さん

4月25日（土）に湯沢町公民館で第30回越後湯沢全国童画展の表彰式が開催され、出席された5名の入賞者（代理出席者含む）へ田村町長から表彰状が授与されました。川上四郎記念大賞を受賞された阿部 広さんは「大賞の受賞を奇跡に思っています。これからも描き続けていきたいです。」と笑顔でお気持ち



審査員の猪爪先生による作品解説会

を話されました。作品解説会では、入賞作品を順に回り、審査員の猪爪 彦一先生から作品の技法や特徴を説明いただきました。出席された入賞・入選者の皆さんや来場された皆さんは、先生から直接講評を聞くことができる貴重な機会に耳を傾けていました。その後は交流会が行われ、出席された受賞者の皆さんや関係者が和やかな時間を過ごしました。



第30回記念展企画の一つとして
歴代大賞作品を展示

30回目の節目を記念し、「第30回記念展」が併せて開催されました。記念企画として、町長賞1点の選出および展示、童画展の歴代大賞作品の公開、川上四郎ゆかりの貴重な品々の展示が行われたほか、「ゆざわジュニア絵画展」も同時開催し、湯沢学園の児童・生徒による力作が会場を彩りました。

第30回記念展も同時開催！

佳作を受賞！ 湯沢町在住の

森下 紅音さんに作品に込めた思いや
受賞へのお気持ちを伺いました



森下 紅音（作家名 Benion）さん（中子）
作品名「君を待っていたよ」

湯沢町は冬が長い分、春の喜びに満ちているように感じます。

冬が終わる寂しさを、雪解け水が勢いよく洗い流すような、慌ただしさの中でも思わず両手を広げて迎えたくなる季節。

ただ「君を待っていたよ」と、喜びが芽吹く春。

そんな雪国の春や、厳しくも美しい冬をそのまま受け入れて生きる人々が、私は好きです。

雪国育ちのサボテンがあってもいい。ペンギンがツバメを育てていたっていい。笑っている花に、虹色の鳥、そして未知の植物たち。

多様性や、名前のない違いも、そのままがいい。

この先を生きていく子どもたちが、どんな環境にあっても、手を取り合いながら、自分らしくのびやかに生きていきますように。

湯沢町に住み始めて、もうすぐ6年。

ここで出会った方々のおかげで、この作品が生まれました。

これは、あなたのおかげでもあります。
ありがとうございます。